

～キレイを目指し、純粋に働く人たち～

# pureera

びゅあら  
創刊号



今年もお世話になりました。  
これから pureera を  
よろしくね！  
多くの名前募集中だよ！  
詳しくは裏面をみてね。

## クリーン&クリーン のあゆみ

「株式会社クリーン&クリーン」は、「東洋ワーク」の洗浄事業部として平成5年に設立しました。

社長が、社員に『お金があったら何をしたいか』と聞いた所、「スーパーの買い物カゴを洗う工場を創りたい」という提案があったことから事業が始まりました。その後、平成22年3月に特例子会社を設立し、社名は「株式会社クリーン&クリーン」に。

主な事業内容は、野菜などを入れる折り畳みコンテナやスーパーの買い物カゴの洗浄作業です。現在は本社の東北工場、北海道の札幌工場、埼玉県春日部工場の3カ所で稼働しています。

クリーン&クリーンでは、障害者雇用を推進しています。初めて障害のある方を雇用したのは、平成7年。知的障害のある方を働かせてほしいという相談を持ち掛けられ、その方を雇用したことから始まりました。



## クリーン&クリーン 東北工場 一年間の奮闘

東洋ワークの特例子会社「株式会社クリーン&クリーン東北工場」では、フロント社員5名とスタッフ4名、工場の従業員18名（うち、知的障害者15名・聴覚障害者2名・身体障害者1名）が勤務しています。

主にスーパーなどの買い物カゴや折り畳みコンテナなどの洗浄を請け負っており、東日本大震災（震度7マグニチュード9.0）が発生した3月11日も、通常業務を行っていました。地震発生時は工場内のカゴがなぎ倒され、洗浄機も破損しましたが、幸いにも従業員は工場の外へ全員避難することができ、無事でした。相次いだ津波で事務所の二階へ避難しましたが、道路より一段高い位置にある工場は津波被害をそれほど受けずに済みました。しかし車が水



震災直後の東北工場



現在の東北工場

没する高さまで道路が浸水していたため、身体を水に濡らしながら工場に駆け込む家族の姿もありました。その日のうちに帰ることができなかった従業員は、翌日の明け方にフロント社員が車で送りました。特に被害の大きい地域に住んでいた従業員は、フロント社員が自宅に泊められました。

従業員の中には、両親や兄弟を亡くした者も、自宅が被害を受け跡形も無くなった者もいます。それでも震災から一週間が経つ頃には、従業員が自主的に出勤し、工場の片づけを始めました。クリーン&クリーンが復旧し、本格的に営業を再開するためには彼らの力が必要不可欠だったのです。

クリーン&クリーンの復旧は前途多難でした。4月6日に一度電気が復旧するものの、翌日の震度6強の余震に阻まれ、再び電気が止まりました。その後もなかなか通電せず、ようやく4月下旬から稼働を始めることができました。

震災直後は、津波の被害を受けたトレーや折り畳みコンテナの洗浄の依頼が増えました。そのほか通常は請け負っていない缶詰の洗浄依頼もありました。津波の被害を受けたトレーはヘドロや砂を被り、匂いも強く汚れが落ちにくくなっていました。通常の洗浄方法では汚れが落ちず、手間をかけ、被災したトレーを一つひとつ洗浄していきました。

震災前と比べ仕事量は減り、工場の設備も万全ではありませんが、それでも前向きに働く従業員たちと工場は、皆様のご支援に支えられ、以前の様子を取り戻しつつあります。

## 被災地支援をともに

平成23年11月19日には、岡山県の卸津国ヶ原にある「NPO岡山自立支援センター・岡山平成いも会」の方々が、岡山で収穫された約3トンのサツマイモを、被災地である宮城県に届けて下さいました。

平成いも会では、今年の6月に4000本あまりの作付けを行い、今秋11月には作業所利用者を含めたボランティア約270名で収穫が行われました。

収穫されたサツマイモは宮城県仙台市にある「JR仙台・農産物直売所たなばたけ高砂店」で、クリーン&クリーンの従業員が焼き芋にして無料配布しました。

被災地ではあるものの、クリーン&クリーンの従業員には終始笑顔が溢れ、震災の苦勞を微塵も感じさせない明るさがあります。

クリーン&クリーンは県外の方々との交流を通じ、「被災地を元気にしたい」という強い想いで、被災地復興支援に取り組んでいます。



サツマイモを配布する従業員

